

あかり・コミュニケーション

工学部物質生命化学科
139t1715 川上 陽太郎

1. はじめに

スマートフォン・パソコン・照明は生活の中で重要な位置を占めている。身近にある照明・スマートフォン・パソコンが「相互に通信する」ことにより生まれる「あかり・コミュニケーション」というアイデアの詳細を以下に記した。

2. 概要

- ① 照明…スマートフォンやパソコンと連動し、その時に合った色のあかりを出す。(スマートフォン・パソコンを用いる。下記参照)。そのためにも、照明の中には4色のLEDを少なくとも搭載する。光の三原色+白色、があれば、さまざまな色が映し出せるからだ。
- ② スマートフォン…カメラのフラッシュ機能を進化させ、ひかり・アートを実行できるようになり、人々の心を癒す。なお、そのフラッシュ機能というのは、現在の1方向にしか映し出せないものではなく、多方向、しかも多色を映し出せるものである。これにより、ライブ会場のような演出を可能にする。
- ③ パソコン…最も適した色を画面上、またはフラッシュで映し出す。キャンドルのようなものを画面に映し出し、人々を癒す。また、スマートフォンのカメラのように、フラッシュ(それも進化した)を搭載している場合には、スマートフォンとともに、ひかり・アートを実行する。(これは実際可能であるように思われる。近年、Skypeなどで、パソコンカメラ(インターネットカメラ)の需要は急速に拡大している。)

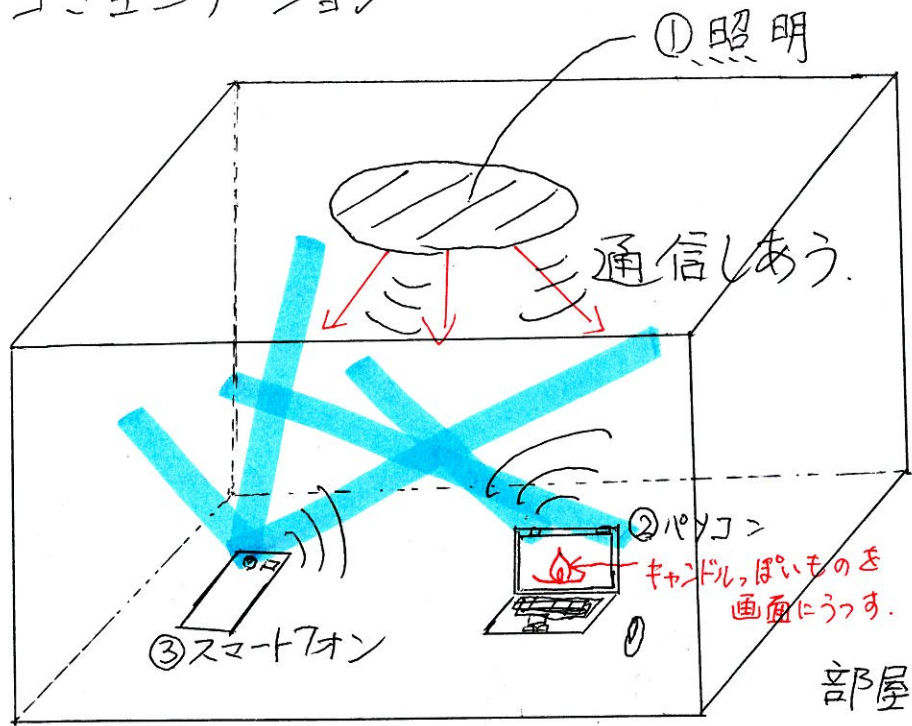
スマートフォンやパソコン(これらも同期しあう)から、使用履歴などをパソコン・スマートフォンが分析する。気持ちが暗い時、明るい気持ちになるように、照明・スマートフォン・パソコンが一体となって演出する。落ち着かないときにも、青色などの落ち着く色を部屋全体で映し出す。その際、全体が同じ色になるのも心地悪いから、パソコンかスマートフォンが計算して(もしくは協力し合い)、心地よい色になるよう、調節する。

また、スケジュールなども、パソコン・スマートフォンが同期し、仕事があるときは基本的に部屋の配色は白色にして、影響が生じない範囲であかり・コミュニケーションを実行する。そこまで忙しくないときには、色・ひかり・アートを楽しませる。パソコンを操作しておらず、かつ人の付近にあるときには、パソコンの液晶画面上に、炎(キャンドル)を映し出す。

3. まとめ

照明・スマートフォン・パソコンにより、一種の「機械と人間とのコミュニケーション」を生じさせる。これにより、人間と機械がますます身近なものになり、また、機械と人間が仲良くなるはずである。こうした思いを込めて、あかりを媒介するコミュニケーションであることから、「あかり・コミュニケーション」と名付けた。

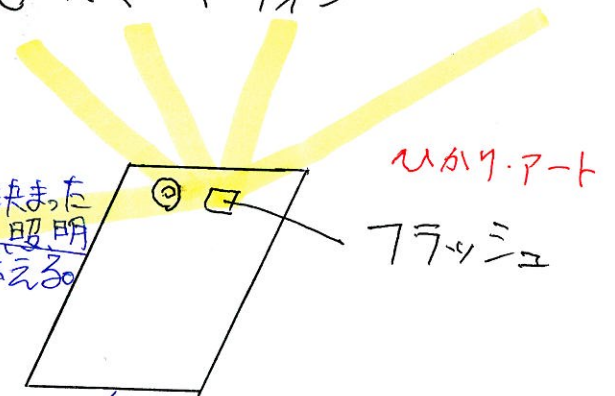
あかり・コミュニケーション



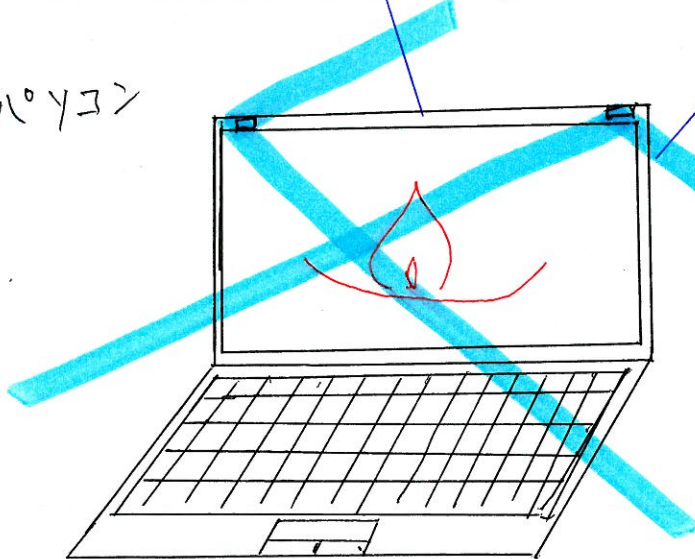
① 照明



② スマートフォン



③ パソコン



① さまざまな情報
(スケジュールや、気持ちや
推定お使用履歴など)
を同期

ひかり・アート → どのようなひかり
アートをするべき
か、スマートフォン
とパソコンが計
算し、決定
(クリスマスなどの
祝祭日なども考慮)

③ ①、②により、照明・スマートフォン・パソコンの「ひかり」
を一致させ、幻想的な空間を演出

⇒ ひとひとに「安らぎ」「集中」等様々な効果を与える。

②、③でのひかり・アートは、屋外(車の中;渋滞中など)でも可能